

『医療福祉総合ガイドブック 2014 年度版』 保健，医療，福祉に かかわるすべての人のため のテキスト

編集：NPO 法人日本医療ソーシャルワーク研究会
編集代表：村上須賀子，佐々木哲二郎，奥村晴彦
定価：本体 3,300 円 + 税／発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



本書前身の『介護保険時代の医療福祉総合ガイドブック』が刊行された頃，介護保険制度が動き出し，社会福祉士や介護福祉士など福祉専門職の需要拡大が見込まれ，全国の大学に福祉関連の学部・学科の新設が相次いだ。

専門職を養成するためには，その専門性に見合った内容を当該専門職が執筆したテキストが必要であり，より専門性を高めるために，細分化された科目別のテキストもつくられる。また，看護学もそうであったが，新たな領域は隣接分野の教育体系や理論，技術を応用しながら専門分野として確立されていく。看護分野のなかの保健師教育の保健医療福祉行政や保健医療福祉制度，在宅福祉サービス提供，家庭訪問技術，在宅看護技術などは福祉分野に多く応用されてきた。本書は，福祉専門職の教育体系構築と専門性強化のために渴望されたガイドブックであった。

「はじめに」で，「医療機関等に勤めるソーシャルワーカーが集まり，地域の社会資源に関する情報と実践から得た経験を交換していく過程で，医療従事者だけでなく，広く一般の方にも情報や経験を届けたいという思いから本書の制作は始まりました」と編者たちが述べているように，本書は隣接分野での活用を想定した編集になっている。『医療福祉総合ガイドブック』という書名のとおり，生涯を通じて活用できる社会保障の制度を一

覧的に網羅し，保健・医療・福祉が総合的に理解できるように編集された内容であり，章立ては，「社会保障のしくみ」「医療サービス」「生活費としごと」「高齢者サービス」「障害児・者サービス」「家庭・児童(子ども)のために」「自然災害等にあった人のために」「社会資源活用とソーシャルワーク」と構成されている。巻末の「資料編」には，障害等級の内容，全国の政令指定都市の子ども医療費助成制度，障害などの患者会，いのちの電話に加え，掲載されることが少ない無料低額診療施設などに関する情報が収録されている。

保健・医療・福祉関係法規は，新法制定や再三の改正が年々繰り返されていて，必然的に，保健・医療・福祉の教育内容や科目名も変わる。実践者は利用者に対する説明も変えなければならない。その点，本書は，毎年改訂されているため，保健・医療・福祉関係の教育者，実務者，学生，国家試験受験者，制度を利用したい人などの強い味方になっている。

本書は，行政制度を解説するだけの書籍とは異なり，版を重ねることで，他分野でも“使える”テキストに進化してきたのである。評者が所属する学科でもテキストとして採用しており，また，他分野の関係者が福祉分野の守備範囲の広さを理解するためにも役立つ書籍といえる。